

# Club & Circle introduction

## 体育会ボウリング部

令和6年卒 佐藤 友哉

「さあー丁!!」「せいっ!!」  
「ボールはそのままでもいいから、もう3枚内側のラインを通した方がいいんじゃない?」「了解!!」  
試合でこんな声が聞こえてくる弊部、さて何部だと思えますか?

我々は本年で創設60年目を迎える、京都大学体育会ボウリング部です。2024年3月現在、部員25名(うち経済学部生2名)で活動しています。今回は我々の取り組む競技ボウリングについて簡単に説明し、弊部が主眼に置いて取り組んでいる関西学生リーグ戦についても少しご紹介したいと思います。少しでもボウリングに興味を持ってもらえたら幸いです。

早速ですが、競技ボウリングについて解説します。皆さんがボウリングと言われて思い浮かぶイメージは、概ねこのようなものではないでしょうか?「店頭のシューズとボールで1番先頭に立っているピンを目掛けて思いっきり投げる!!」。確かに私も高校時代のイメージはこのようなものでした。しかし、実はレーンの上にはオイルが載っており、その濃淡をうまく活用してストライクを狙う、これが競技ボウリングです。更にボールについても様々な種類があり、摩擦力の大小、ボールの中のコアの強弱、ボールの表面素材などに違いがあり、それらを考えながら、どのボールを使ってどのラインを投げるかを考えます。投げるラインについても、ボウリングのレーンを構成する幅2.54cmの板1枚単位で調整します。



そんな競技ボウリングに取り組む中で、弊部が主眼に置いているのは、春と秋の年2回行われる関西学生リーグ戦です。この試合は、弊部の代表5名と対戦校の代表5名が同じレーンで投げ、合計スコアの高い学校が勝利となります。1人でもでき



る個人競技のボウリングですが、リーグ戦などのチーム戦においてはチーム競技の要素もあります。例えば、チームメンバーのうち1名が対戦校の選手が投じているラインをわざと摩擦力の強いボールで投げて邪魔するという戦術をとったり、掛け声をチーム全体で統一したり、投げるラインのアドバイスや共有をしたりします。本稿の最初に紹介した声もこのリーグ戦でのひとコマです。我々は部全体でリーグ戦に取り組み、京都産業大学や同志社大学といった強豪校に一矢報いることを目標に取り組んでいます。

弊部の紹介を通して、競技ボウリングの面白さや奥深さが少しは伝わったでしょうか?

もっと様子が知りたいという方は是非「関西学生ボウリング連盟」のYouTubeチャンネル (<https://www.youtube.com/@kansaiagakuseibowling>) を覗いてみてください!

